

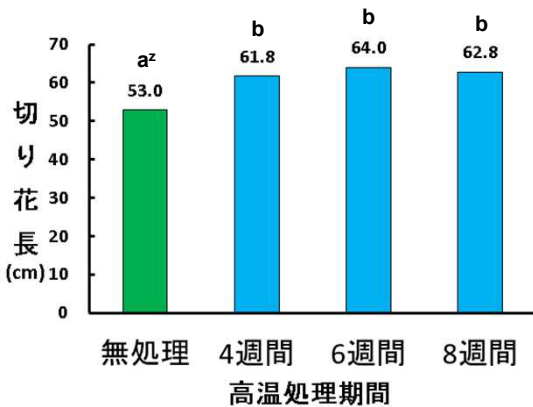
# 定植後のトンネル被覆で5月どりストックの切り花長が長くなり品質が向上する

## 【背景・目的・成果】

ストックは、淡路地域では無加温温室で秋から翌春にかけて二期作で作付け・出荷されています。しかし、春作では定植後の低温に感応し花芽分化するため切り花長が短くなり、品質低下が問題となります。

そこで、定植後のトンネル被覆により高温処理すると、切り花長が長くなり品質向上が図れます。

1 定植後のトンネル被覆高温処理で、無処理区に比べて切り花長が長くなり、品質向上が図れます。



無処理

4週間

6週間

8週間

図 高温処理期間の違いが切り花長に及ぼす影響  
品種:「ピンクアイアン」、播種日:2015年1月7日、  
定植日:3月10日  
²異なるアルファベット間に5%レベルで有意差有り

写真1 各高温処理区の切り花の姿

2 高温処理4~6週間で、茎が硬く花穂長も10cm以上と、十分な切り花の品質を維持できます。



写真2 温室内でのトンネル被覆高温処理の状況

表 高温処理期間の違いがストックの平均開花日と切り花形質に及ぼす影響

処理区	平均開花日	切り花重 (g)	節数	花穂長 (cm)	茎の硬さ <sup>γ</sup>	トンネル内気温(°C)		
						平均	最高	最低
無処理	5月7日 a <sup>z</sup>	71.8 a	41.8 a	10.8 b	1.0	15.6	35.4	-2.1
4週間	5月8日 ab	70.0 a	49.9 b	10.3 ab	1.0	18.4	50.2	2.6
6週間	5月7日 a	66.7 a	49.0 b	10.6 b	1.0	18.4	50.2	2.6
8週間	5月11日 b	60.5 a	51.2 b	9.5 a	1.0	20.0	55.2	2.6

<sup>z</sup>異なるアルファベット間に5%レベルで有意差有り

<sup>γ</sup>切り花の先端から50cmの位置で水平に持った時の垂れ下がる角度を数値化  
(1:10°未満, 2:10~20°, 3:20~30°, 4:30~40°以上)

品種、播種日、定植日は図と同様

## 【技術の活用】

トンネル処理は、産地ではこれまで4月出荷で実施されていますが、5月出荷でも切り花長が長くなることから、作期の拡大・品質向上に活用できます。